

平成27年12月

各位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成27年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいませようお願いいたします。

さて、毎年恒例の『ふるさと祭り東京ー日本のまつり・故郷の味ー』が、年明け1月8日(金)～17日(日)に東京ドームで開催されます。全国各地の伝統ある祭りと特色あるグルメが楽しめる国内最大級のイベントです。全国ご当地どんぶり選手権では、前回準グランプリだった『八戸銀サバトロづけ丼』が、シードどんぶりとして参戦します。皆さまお誘い合せの上、是非お越しください！

### 記

#### 『ふるさと祭り東京ー日本のまつり・故郷の味ー』

- 日 時：平成28年1月8日(金)～17日(日)
    - 1/8(金)…11:00～21:00 / 9(土)10(日)11(月・祝)…10:00～20:00 / 12(火)…10:00～19:00
    - 13(水)14日(木)15日(金)…10:00～21:00 / 16(土)…10:00～20:00 / 17日(日)…10:00～18:00(※入場は閉場の30分前まで)
  - 場 所：東京ドーム
  - 入場料(すべて税込)
    - ・当日券 1,600円(前売1,400円) [期間中有効]
    - ・平日限定当日券 1,300円(前売1,000円) [1月8日・1月12～15日有効]
    - ・イブニング券 1,100円 [16時以降、会場窓口にて販売]
- ※ JR東日本の主なみどりの窓口、びゅうプラザ、または各プレイガイド等で販売中  
※ 小学生以下のお子様は、大人1名の付き添いにつき4名まで無料

#### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階  
電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723  
E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸12月号 レポート

平成27年11月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸、久慈、三戸 三圏域連携懇談会 中国語版PR動画制作
2	「就労サポートコーナー八戸」市内開設から1年 集中的支援が奏功
3	「ボクターカーV3」 11月末にも運用開始
4	鈴木秀樹氏（鹿島フロントラース取締役事業部長）を 八戸大使に委嘱

## 【産業】

No.	項目
5	7～10月八戸港サバの水揚げ 三陸分は過去10年で最低
6	県産業技術センター食品総合研が開発 活メ冷凍サバを刺し身で提供

## 【地域】

No.	項目
7	いちご煮の魅力発信CM作成 田中浪（みん）さんを起用
8	「八戸さんぽアスタール」育成へ ～隠れた名所や魅力を探りおもてなし～
9	ネパールで国際緊急援助活動 山本さん（八戸消防署）に外務大臣感謝状
10	蕪嶋神社 全焼 ① 八戸市民に大きな衝撃
11	蕪嶋神社 全焼 ② 卒業記念の天井画も焼失
12	蕪嶋神社 全焼 ③ 「歌人・柳原白蓮」の書 焼失を免れる
13	鮫駅前イルミネーション点灯 “蕪嶋神社再建 明かりに願う”
14	みろく横丁 来年4月リニューアルに向け出店者を募集
15	認知症患者の家族支えた「やさしい手の会」が全国表彰
16	八戸市景観賞に「LNGターミナル」「KOMEKUUTO」「史跡根城の広場」
17	八戸せんべい汁研究所 地元若者向けに「プロジェクトあ！」開催
18	作家 推名誠さん・モンペル会長 辰野勇さんが対談 「種差海岸を語ろう」
19	青森県フェリー埠頭公社 八戸港フェリー専用岸壁を増設へ

## 【文化・スポーツ】

No.	項目
20	テーリー東北創刊70周年記念 カラコンサート～名曲オペラの夕べ～ 開催
21	八戸前沖さばアスタール料理コンテスト 「さば味噌グラタン」がグランプリ
22	全国水産加工品総合品質審査会 八戸のコロナホ2商品が水産庁長官賞！
23	「全国硬筆コンクール」 八戸市の幼稚園児 高橋穂空（らいく）ちゃんが特別賞
24	ユートリー新商品人気コンテスト 「八戸銀サバトロフ汁」が1位
25	全国高校生徒商業研究発表大会 八戸商の千ームが最優秀賞！

## 【県内】

No.	項目
26	青森県のがん死亡率 11年連続で全国最悪



No.

レポート

**八戸、久慈、三戸 三圏域連携懇談会 中国語版PR動画制作**

八戸、久慈、三戸の3市長と青森、岩手両県の出先機関の2局長で構成する三圏域連携懇談会は、11月4日、久慈市役所で第17回会合を開き、インターネット動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信している三圏域のPR動画について、中国語版を制作し台湾からの誘客促進に活用することなどを確認した。PR動画は本年度から取り組み、歴史や祭り、景勝地、グルメなど三圏域に共通する魅力を発信している。台湾からの観光客が多いことなどを踏まえ、中国語版を用意して宣伝を強化することとした。

**「就労サポートコーナー八戸」市庁内開設から1年 集中的支援が奏功**

生活保護受給者や生活困窮者らを支援するため、青森労働局と八戸市が昨年11月、市庁内に設置した八戸公共職業安定所の常設窓口「就労サポートコーナー八戸」が、開設から1年たった。この窓口は生活保護の事務を手掛ける生活福祉課に隣接させ、利用者の利便性向上を図ったほか、市と八戸職安が連携して支援できる態勢を築いた。利用者が就労に結び付いたのは、年間目標とほぼ同水準の127人で、中には就職して生活保護を抜けた人もおり、一定の成果を挙げている。

**「ドクターカーV3」 11月末にも運用開始**

八戸市立市民病院と八戸工業大が共同開発し、心肺停止などの緊急を要する患者を出勤先で手術できる機能を搭載した「ドクターカーV3」の初の研修会が、近隣の消防関係者を招き、市民病院で開かれた。運用開始時期に関して、今明秀副院長は「早ければ11月末には本格運行をしたい」との見通しを示した。V3は重症な心筋梗塞などの患者が発生した場合に、病院から20～50キロ圏内へ出勤するほか、災害時の活用も想定。現地で車両後方にテント型の処置室を張り出し、医師が手術を行う。



**鈴木秀樹氏（鹿島アントラーズ取締役事業部長）を 八戸大使に委嘱**

八戸市は11月25日、鹿島アントラーズ取締役事業部長の鈴木秀樹氏を八戸大使に委嘱した。鈴木氏は市川中、陸上自衛隊少年工科学校卒で、1981年から住友金属鹿島製鉄所のサッカー選手として勤務。93年のリーグ発足と、アントラーズ設立に携わった。小林市長は「八戸の名を全国的に広めてほしいし、ゲンジウラーレ八戸へのアピバイスも頂きたい」と期待。鈴木氏は「八戸に行ったことがある人は必ずリピーターになる。魅力をアピールしたい」と話していた。



No.

レポート


**7～10月八戸港サバの水揚げ 三陸分は過去10年で最低**

八戸港では今季の大中型巻き網船団によるサバの水揚げが不振である。操業が本格化した7月下旬から10月末までの数量は2万7267トンで、前年同期を約8400トンも下回った。数量の内訳は、三陸操業が1万9409トン（前年同期比22%減）、道東など遠海操業が7858トン（26%減）。うち三陸分は、過去10年の同期間では最低となった。近海では台風接近による休漁が相次いだのに加え、操業しても1日200トンを超える日が少なかった。サバを扱う市内の加工業者は、原料不足に頭を抱えている。



6	<p><b>県産業技術センター食品総合研が開発 活メ冷凍サバを刺し身で提供</b></p> <p>八戸市の青森県産業技術センター食品総合研究所は、開発した刺し身食用高鮮度冷凍サバの製造技術、管理方法を用いた「船上活メ(かつじめ)陸凍サバ」を、「サバの駅」と「揚乃屋」の2店舗で試験販売する。縮めてから数時間以内に、三枚おろしの状態に加工し、超低温で急速冷凍、保管し、各店で刺し身として提供する。関係者は「めつたに食べられないサバの刺し身を味わい、食総研の取り組みを知ってほしい」とPRしている。</p>
---	---

【地域】

No.	レポート
7	<p><b>いちご煮の魅力発信CM作成 田中涙(みん)さんを起用</b></p> <p>八戸市の水産加工会社「味の加久の屋」が、大須賀海岸で県南地方の郷土料理「いちご煮」をPRするテレビCMを撮影した。舞踊家でNHKの連続テレビ小説「まれ」に出演した田中涙さんを起用。ディレクターの今村直樹さんによると「八戸の海の穏やかさと厳しさの両方を伝えたい」として、砂浜と険しい岩場が入り組む同海岸をロケ地に選定。登場人物のせりふがほとんどなく、キャストは企画当初から存在感のある田中さんに決めていたという。映像には同社の商品は使わず、純粋に「いちご煮の魅力」を伝える作品に仕上げた。12月から青森県内民放各局で放映する。</p>
8	<p><b>「八戸さんぽアスター」育成へ ～隠れた名所や魅力を探りおもてなし～</b></p> <p>八戸市内のまちなかの魅力や穴場を歩いて案内する「八戸さんぽアスター」を育てようと、八戸観光コンベンション協会は「八戸まちあるきガイド育成講座」を、八戸市内在住者を対象に11月11日から全7回の日程で開講した。観光施設や歴史を巡る従来のツアーにとどまらず、「暮らしているからこそ知っている街の魅力」「街の中にある隠れた名所」などを取り入れたおもてなしツアーの手法を、参加者とともに探っていく。講座でガイドの基本を学んだ参加者をアスターに認定し、実際に観光客を案内する人材を育てる試みである。</p> 
9	<p><b>ネパールで国際緊急援助活動 山本さん(八戸消防署)に外務大臣感謝状</b></p> <p>4月に起こったネパール大地震の被災地で、日本の国際緊急援助隊員として活躍した八戸消防署河原木分署の救急救命士・山本大樹さんが、外務省で外務大臣感謝状を受けた。山本さんは5月7～20日、医師や看護師ら約30人とともに、ネパール北東部にある山あいの村などで、診察・治療の補助業務を担当した。「現地を離れる際、やり残したことが多く悔しさでいっぱいだった。その気持ちを忘れず、1人でも多くの命を救いたい」と話している。</p>
10	<p><b>蕪嶋神社 全焼 ① 八戸市民に大きな衝撃</b></p> <p>11月5日午前4時20分ごろ、鮫町の蕪嶋神社から出火し、木造平屋の社殿約280平方メートルを全焼した。八戸署などによると、午前4時25分ごろ、神社内に設置してある火災を感じする機器が作動し、警備会社を通じて110番通報があった。消防車両約20台が出動し約4時間55分後に鎮火した。東日本大震災では、神社に続く階段下にある鳥居周辺が津波に襲われたが、社は被害を免れた。復興の象徴として、また市の観光名所として、地域の誇りだった神社の焼失に、関係者のみならず、市民に大きな衝撃が広がった。</p>



**蕪嶋神社 全焼 ② 卒業記念の天井画も焼失**

蕪嶋神社の拝殿には、2000年に地元・鯨小学校の6年生が力を合わせて卒業記念として描いたウミネコ約60羽の天井画と、同校出身の画家・久保田政子さんが描いた障壁画があった。天井画は2000年1月、6年生115人が2日間かけ、久保田さんの指導を受けながら2人一組で制作。寒い中、児童は筆を使わず、アクリル塗料を指で描いて仕上げた。いずれも熱い思いで制作・奉納されていた貴重な絵で、関係者は「二度と描けない作品。残念」と肩を落としている。



**蕪嶋神社 全焼 ③ 「歌人・柳原白蓮」の書 焼失を免れる**

多くの貴重な品物が失われた中、歌人・柳原白蓮(1885～1967)が1951年に同神社を訪れて詠んだ歌をしたためた書は焼失を免れた。書は横約1メートル、縦約45センチの額に納められ、全焼した拝殿に隣接する応接間に掲げられていた。紙の表面にはすすの粉や燃えかすが付着して、額縁も焼けており、貴重な品物でなければ、修復を断念した方が良いと思うほど傷んでいました。野澤宮司は「ほとんどが焼けてしまつた中、宝が一つ残ったという思いで、うれしかった」と話しており、修復後は再建のシボルとして再建後の社殿に飾る方向である。

**鯨駅前イルミネーション点灯 蕪嶋神社再建 明かりに願う**

JR鯨駅の駅前広場で11月11日夕方、年末を控え、恒例のクリスマスイルミネーションが点灯した。地域住民の心よりどこころである蕪嶋神社が全焼したため、今年からは自粛する方向だったが、住民からは点灯を求める声もあり、一転、実施することに決めた。関係者は「暗い気持ちになっっている住民を元気づけ、神社再建を後押しできれば」と話している。イルミネーションの点灯は1月15日までの午後5時から同10時(年末年始、クリスマスは午前0時)まで。

**みろく横丁 来年4月リニューアルに向け出店者を募集**

八戸市中心街の八戸屋台村「みろく横丁」を運営する北のグルメ都市は、来年4月のリニューアルに向け、全26店の出店者を募集している。今回は看板に掲げるメニューを重視して選考する方針で、横丁の活性化を図る考えである。出店受け付けは12月28日まで。書類選考や試食会などの審査を経て、来年3月に決定する。

**認知症患者の家族支えた「やさしい手の会」が全国表彰**

認知症の普及啓発活動や介護者の交流会を通して、長きにわたり地域の精神保健福祉に貢献したとして、八戸市の「八戸地域認知症を抱える家族の会 やさしい手の会」が、「日本精神保健福祉連盟会長表彰」を受けた。会は1991年に八戸保健所を事務局として発足。保健師らの支援を得て活動をスタートさせた。同会には認知症患者の家族ら約30人が在籍。2カ月に1回のペースで介護の悩みを語り合う「ひと息サロン」や、介護の専門家らを招いた年2回の勉強会、会報の発行など、継続した活動を展開している。

**八戸市景観賞に「LNGターミナル」「KOMEKUUTO」「史跡根城の広場」**

八戸市が第27回市景観賞を発表した。まちなみ空間部門は、JX日鉱日石エネルギーの「八戸LNG(液化天然ガス)ターミナル」と、PEBORA(ペボラ、三沢市)が運営する米専門店「KOMEKUUTO(コマケート)八戸店」の2件が受賞。景観づくり部門では「史跡根城の広場」が選ばれた。LNGターミナルは「工業地帯の中でも群を抜くスケール。東日本大震災で被災した沿岸部の復興の象徴、新しいランドマークになった」と高く評価された。



17	<p><b>八戸せんべい汁研究所 地元若者向けに「プロジェクトあ！」開催</b></p> <p>八戸せんべい汁研究所は11月23日に、八戸せんべい汁にもっと親んでもらおうと、「プロジェクトあ！」を八戸市立白山台公民館で開いた。「プロジェクトあ！」は、全5回で、地元の若者にまちおこしへの思いを根付かせるとともに、汁研究の八戸せんべい汁の基本的な調理方法を確立することを目指す取り組み。「あ！」はアルブロンテ、アイデア、青森県などさまざまな意味の「あ」が込められている。高校生や短大生ら15人が参加し、調理実習や講座を通じて郷土食の新たな魅力を見つけていた。</p> <p><b>作家 椎名誠さん・モンベル会長 辰野勇さんが対談 「種差海岸を語ろう」</b></p>
18	<p>種差海岸を何度も訪れている作家の椎名誠さんと、アウトドア用品メーカー・モンベルの創業者で会長の辰野勇さんが11月23日、南部会館で「種差海岸を語ろう」をテーマに対談し、それぞれ視点から思いい出や魅力を語り合った。昨年初めて種差を歩いたという辰野さんは「ごみの無い砂浜が現存していて、岩の形も素晴らしい」と印象を語り、椎名さんは「日本を代表する美しい海岸。ぜひ守り抜いて、次世代にも伝えてほしい」と呼び掛けた。</p> <p><b>青森県フェリー埠頭公社 八戸港フェリー専用岸壁を増設へ</b></p>
19	<p>八戸港フェリー埠頭の岸壁を拡張し、全長150メートル級フェリーが2隻同時に着岸できるようにする整備計画で、事業主体の青森県フェリー埠頭公社は、青森市で臨時理事会を開き、総事業費を約5億3千万円などとする事業計画を決めた。今後、詳細設計などを経て早ければ2016年4月着工、2017年4月に運用を開始する予定である。</p>

【文化・スポーツ】

No.	レポート
20	<p><b>テニーリー東北創刊70周年記念 ガラコンサート～名曲オペラの夕べ～開催</b></p> <p>テニーリー東北創刊70周年を記念したガラコンサート「名曲オペラの夕べ」が11月22日、八戸市公会堂で開かれた。世界的テノール歌手ジョン・健・ヌッツォさんからソリストと、八戸市出身の指揮者松井慶太さんが競演。ソリストは他に、ソプラノで八戸市出身の間口友美さんと泉萌子さん、メゾソプラノで十和田市出身の加賀ひとみさん、バリトンで新郷村出身の福山出さん、バスで片山将司さんが出演した。地元のアークストラや合唱団も加わって迫力あるステージを披露し、満員の1400人を感動で包み込んだ。</p>
21	<p><b>八戸前沖さばアイディア料理コンテスト 「さば味噌グラタン」がグランプリ</b></p> <p>八戸前沖さばブランド推進協議会主催の「第9回八戸前沖さばアイデア料理コンテスト」が、11月8日に八食センターで開かれた。今回は前回までの部門制をなくし、「国際色豊かな八戸前沖さば料理」とのテーマを初めて設定。審査の結果、八戸調理師専門学校の学生・中村汐里さんが出品した「さば味噌グラタン」(サバ水煮の缶詰を使い、ホウイトソースとみそを合わせて、こんがり焼き上げた)がグランプリに輝いた。受賞作品は、市内飲食店でメニュー化する予定。</p>
22	<p><b>全国水産加工品総合品質審査会 八戸のコラボ2商品が水産庁長官賞！</b></p> <p>第26回全国水産加工品総合品質審査会で、武輪水産(八戸市)の「割烹金剛・八戸鯖味噌煮」、ダイマール(同)の「八戸銀サバトロづけ丼」が、最高位に次ぐ水産庁長官賞に輝いた。武輪水産の味噌煮は老舗「割烹金剛」と共同開発で、田舎風粒みそで味付けしたサバ煮に、シヨウガ風味が効いた特製みそをかけて仕上げるのが特徴。ダイマールのづけ丼は、「サバの駅」代表の沢上弘さんが監修、「全国ご当地もんぶり選手権」で準グランプリを獲得した味を、家庭で手軽に再現できる。いずれも八戸が誇るサバを原料に、市内を代表する味どころの協力を得て誕生した加工品が、高く評価された。</p>



23	<p>「全国硬筆コンクール」 八戸市の幼稚園児 高橋煌空 (らいく) ちゃん が特別賞</p> <p>八戸市のマリアンハウス幼稚園の年中児高橋煌空(らいく)ちゃんが、「第31回全国硬筆コンクール」の幼年の部で「全書会大賞」を受賞した。年中児のコンクールの課題は、平仮名の「うた」と自分の名前。園では日頃から文字を書く練習をしており、6、7月は職員が作ったプリントなどを活用し、園や自宅でも毎日練習に取り組んだという。今回応募した全国の年中児700人以上の中から1人のみに与えられる特別賞で、同園は喜びに沸いている。</p>
24	<p>ユートリー新商品人気コンテスト 「八戸銀サバトロウけ丼」が1位</p> <p>八戸地域地場産業振興センター(ユートリー)が、本年度の新商品人気コンテストで1～3位に輝いた3商品を表彰した。市民らの投票の結果、1位には、「俵屋・サバの駅」の沢上弘さんが監修した「八戸銀サバトロウけ丼」(ダイメール)が輝いた。この商品は、2015年度の「全国ご当地どんぶり選手権」で準グランプリを獲得した味を、家庭でも味わえるように冷凍加工したものだ。来場者からは「脂の乗ったサバとタレの甘辛さが絶妙」「お茶漬けにも合いそう」などの声が出て幅広い層に人気だった。2位は「真いわし醤油味缶詰」(宝幸八戸工場)、3位は「八戸あわせ」(武輪水産)が選ばれた。</p>
25	<p>全国高校生徒商業研究発表大会 八戸商のチームが最優秀賞!</p> <p>「商業高校生の甲子園」といわれる、第23回全国高校生徒商業研究発表大会が11月26、27の両日、青森市で行われ、八戸観光アプリの開発について発表した青森県立八戸商業高のチームが最優秀賞に輝いた。同大会で県内の高校が“最高賞”を射止めるのは初めて。アプリでは八戸市内の観光場所などを紹介したり、行事の開催地や観光地の地図機能を搭載したりしたほか、朝市が舞台のゲームなどを楽しむことができ、生徒はパワーポイントを駆使しながら開発内容を堂々と発表した。同高の生徒は「アプリを通じて、八戸の魅力を発信する方法をうまく伝えられたい」と喜びを語った。</p>
26	<p>青森県のがん死亡率 11年連続で全国最悪</p> <p>人口10万人当たり、何人ががんで死亡したかを示す青森県の年齢調整死亡率は2014年、98.0と全国最悪となった。青森県のラーストは2004年から11年連続。死亡率は、長期的に見るとなだらかに下がっているが、全国との差が広がっている。全国平均(79.0)に比べ19ポイント、死亡率最低の長野県(68.3)に比べ29.7ポイントの差があった。県ががん対策推進計画では、2017年の年齢調整死亡率の目標を82.6としているが、現状では達成は極めて困難な見通し。2014年の青森県のがん死者は5001人で全死者1万7042人の約3割を占めており、対策が急務となっている。</p>

【県内】

レポート